



胃部X線検査について



(公財) 鳥取県保健事業団

鳥取市富安二丁目9番4

Tel 0857-23-4841

4月号から7月号にかけて、いろいろな健診や健診現場をご紹介します。
第2弾の5月号は、胃部X線検査についてです。



胃部X線検査でわかる病気

胃の病気

胃がん、胃潰瘍、胃炎、胃ポリープなど

その他

食道炎、食道潰瘍、十二指腸潰瘍など



検査を受けるときに注意すること

- 妊娠中またはその疑いがある方は受診できません。
- 検査には**絶飲食**でお越しください。また、当日のガムやタバコはお控えください。夏場など、水(白湯)を摂られる場合は、受付の1時間前までに、のどを潤す程度のごく少量でお願いします。
 - ・午前受診の方：前日の夕食は消化の良いものにされ、21時以降の食事は摂らないでください。
 - ・午後受診の方：受付の6時間以上前までの、消化の良い軽食(パン、うどん、そばなど)は可能です。肉類、お米、卵焼き、貝類、ラーメン、こんにやく、海藻類などは避けてください。
- 以下のような画像の読み取りを妨げるものは、写らないように準備してください。
 - ・金属、プラスチックなどの留め具やボタンなどが付いた服、金属のついた下着
 - ・ネックレスなどのアクセサリや、お守りなど
 - ・エレキバン(磁石)、使い捨てカイロなど
 - ・文字や模様がペイントしてある衣類、刺繍、胸ポケットなどがある衣類



異常が見つかったら

要精密検査の判定の場合、紹介状が発行されます。紹介状に同封されている医療機関一覧表を参考に、必ず医療機関を受診して、詳しい検査を受けてください。



X線撮影をデジタル化しました!

以前はフィルムを使ったアナログ方式で撮影していましたが、胸部X線、胃部X線、マンモグラフィーすべての撮影をデジタル化しました。

X線被ばく量がアナログ撮影の約半分に減る

- ・以前よりさらに安心して健診を受けていただくことができます。

病変をより見つけやすくなる

- ・画像がアナログ間接撮影の9倍の大きさで見やすく、さらに拡大したり、濃度を変えたりすることも自由に行えます。また、画像が美しく鮮明です。がん発見率が上がったというデータも出ています。

デジタルデータとして保存できる

- ・アナログ撮影では必要な方だけ以前のフィルムを探して比較をしていましたが、デジタル撮影では過去画像があれば自動的に表示されるため、より正確な判定が行えます。
- ・医療機関への画像提供が簡単に行えます。
- ・フィルムの現像が不要になり、廃液による環境汚染がなくなります。

撮影後すぐにモニター表示ができる

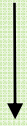
- ・その場で画像を確認できます(金属などの写りこみや画像のぶれがないか確認します)。



健診現場をご紹介します♪

【胃部X線撮影の流れ】

①技師によるバリウム問診チェック



胃部検診車



検診車内更衣室

ここで、金属類を外すなど、画像の読み取りを妨げるものは、写らないように準備します

②発泡剤とバリウムを飲む

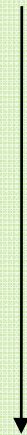


検診車の撮影室



健診センターの撮影室

③体の方向を変えながら、X線写真を撮る



技師の指示に合わせて体の向きを変えてください。撮影台も動きます。



④口をすすぎ、下剤を飲む

※検査終了後の日は、いつもより多めに水分を摂ってください。



終了です。お疲れさまでした！



胃がん検診についての疑問？

Q 1. 胃がん検査前に食べたり飲んだりしてはいけないのは、どうして？

A 1. 胃の中に食べ物があり、検査に支障が出てしまうことを防ぐためです。

胃の中に食べ物があると、バリウムの付着が悪くなり、病変が見つげにくいなど、検査に支障が出てしまいます。そのため、絶飲食をして、胃の中に食べ物が残らないようにします。また、タバコを吸うと胃液が分泌され、胃液が胃の中に溜まり、バリウムの付着が悪くなりますので、当日のタバコは検査が終わるまでお控えください。

年に1回の検査を有効なものにするために、検査前はのどを潤す程度の水以外は、飲食をせずにお越しください。

Q 2. 発泡剤とバリウムを飲むのは、どうして？

A 2. 発泡剤で胃を膨らませ、バリウムで胃の状態を写すためです。

発泡剤とバリウムを飲むと、発泡剤から発生したガスは黒く、バリウムの部分は白く写ります。そのコントラストで、胃の内壁を詳しく写し出すことができます。発泡剤を飲むと、げっぷをしたくなりますが、げっぷをすると、せっかく膨らませている胃がしぼんでしまうので我慢をお願いします。

Q 3. 検査中に体の向きを変えたり、撮影台を動かすのは、どうして？

A 3. 胃の内側の壁に、まんべんなくバリウムを付着させるためです。

胃の内壁をはっきりと写し出すためには、まんべんなくバリウムを付着させる必要があります。そのため、体の向きを変えたり撮影台を動かすことで、バリウムを胃の中で動かし、内壁全体にいきわたるようにしています。

